

環境に関する取り組み

Global Forest Watch(GFW)分析

生態系の完全性、生態系サービスの提供にとって重要な地域を特定するために、GFWの以下の3つのツールを用いて分析しました。各項目(①～③)の特定に使用した指標は下記の通りです。

- ①生態系の完全性が高い地域の特定
Global Biodiversity Intactness (生物多様性の完全性)
- ②生態系の完全性が急速に低下している地域の特定
Forest Landscape Integrity Index (森林景観完全性指数)

■ GFWによる分析のまとめ				2025年3月31日現在
生産拠点名	生態系の完全性が高い地域の特定	生態系の完全性が急速に低下している地域の特定	先住民、地域社会、ステークホルダーへの便益を含む、生態系サービスの提供にとって重要な地域の特定	
福島第一工場	該当しない	該当しない	該当しない	
福島第二工場		該当		
愛知工場		該当しない		
徳山工場		該当しない		
サプライヤー8社	1社が該当	1社が該当	該当しない	

Aqueduct分析

水リスクの高い地域を特定するために、World Resources Institute (WRI) のAqueductの以下の3つの分析ツールを用いて、当社の水リスクベースライン(3=Medium-high以下の地域を非該当、4=High以上の地域を該当とする基準)に従い分析しました。

- ①Water Stress(水ストレス)
- ②Riverine Flood Risk(河川の洪水リスク)
- ③Coastal Flood Risk(沿岸部の洪水リスク)

Aqueductによる分析結果(直接操業、バリューチェーン上流)

解析の結果、①でサプライヤー2社が該当、②でサプライヤー1社が該当、③は該当なしという結果になりました。

■ Aqueductによる分析のまとめ				2025年3月31日現在
生産拠点名	生態系の完全性が高い地域の特定	生態系の完全性が急速に低下している地域の特定	先住民、地域社会、ステークホルダーへの便益を含む、生態系サービスの提供にとって重要な地域の特定	
福島第一工場	該当しない	該当しない	該当しない	
福島第二工場				
愛知工場				
徳山工場				
サプライヤー8社	2社が該当	1社が該当	0社	

優先地域の特定(直接操業、バリューチェーン上流)

分析ツールやデータベースを使用して得た分析結果を基に、以下のように優先地域を特定しました。

- ③先住民、地域社会、ステークホルダーへの便益を含む、生態系サービスの提供にとって重要な地域の特定
Indigenous and Community Lands (先住民族・コミュニティの土地)

GFWによる分析結果(直接操業、バリューチェーン上流)
解析の結果、①でサプライヤー1社が該当、②で福島第二工場とサプライヤー1社が該当、③は該当なしという結果になりました。

■ Aqueduct分析(水ストレス、国内4生産拠点)



■ 優先地域のまとめ

生産拠点名	所在地	要注意地域の特定			
		生物多様性にとって重要な地域	生態系の完全性	物理的な水リスクが高い地域	重要な生態系サービスの提供
福島第一工場	福島県郡山市	国内生産拠点は4カ所あり、いずれもIBATの複数の分析指標に該当しているそのため、生物多様性の重要性は高いと考えられる	生態系の完全性が高くはなく、急速に低下している地域ではない	水リスクの高い地域ではない	先住民、地域社会、ステークホルダーへの便益を含む、生態系サービスの提供にとって重要な地域ではない
福島第二工場	福島県田村郡		生態系の完全性が高くはないが、急速に低下している可能性がある		
愛知工場	愛知県知多郡		生態系の完全性が高くはなく、急速に低下している地域ではない		
徳山工場	山口県周南市		生態系の完全性が高くはなく、急速に低下している地域ではない		
サプライヤー(上流)	8カ所(世界)	8社中5社は、IBATの複数の分析指標に該当しているそのため、生物多様性の重要性は高いと考えられる	8社中1社は生態系の完全性が比較的高いまた別の1社は生態系の完全性が高くはないが、急速に低下している可能性がある	8社中2社は水ストレスに該当し、1社は河川の洪水リスクに該当する地域である	

Evaluate:自然への依存と影響の特定・評価

自然への依存と影響の特定

自然関連への依存・影響を特定するために、ENCORE^{※1}を用いて調査し、それぞれヒートマップにまとめました。

※1:ENCORE(Exploring Natural Capital Opportunities, Risk and Exposure)
金融機関のネットワーク「自然資本金融同盟」と国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター(UNEP-WCSC)が共同で開発したツールで、潜在的な自然への依存・インパクトのリストやフロー図等を入手することができる。

自然への依存と影響の評価

ENCOREによって得られた情報(ヒートマップ)を基に、当社の直接操業、バリューチェーン上流(原料、燃料)における自然への依存度と影響度を評価しました。

■ 依存に関するヒートマップ										VL Very low	L Low	M Medium	H High	VH Very high
バリューチェーン	自然への依存													
	供給サービス	調整・保守サービス												
	水の供給	土壌流出防止	洪水緩和	暴風雨の緩和	水流維持	降雨パターン調整	気候調整	地域の気候の調整	汚染物質の浄化	水質浄化	空気ろ過	その他のサービス	騒音減衰	その他の規制および保守サービス
直接操業 (生産)	M	M	M	M	M	VL	VL	L	L	M	VL	L	VL	VL
サプライチェーン上流 (原料)	M	M	M	M	M	VL	VL	L	L	M	VL	L	VL	VL
サプライチェーン上流 (燃料)	L	M	M	M	M		VL	L	L	H	VL		VL	VL

■ 影響に関するヒートマップ

VL

Very low

L

Low

M

Medium

H

High

VH

Very high

バリューチェーン	自然への影響						
	気候変動	土地利用の変化	汚染・汚染除去				資源使用・資源補充
	温室効果ガスの排出	陸上生態系の利用	GHG以外の 大気汚染物質	土壌・水質汚染物質	固形廃棄物	外乱 (騒音、光など)	水使用量
直接操業 (生産)	M	L	M	VH	M	VH	M
サプライチェーン上流 (原料)	M	L	M	VH	M	VH	M
サプライチェーン上流 (燃料)	M	L	H	VH	M	VH	L